
一幕の雪夜 - North Princes and East Crown -

神内

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一幕の雪夜 - North Princes and East Crown -

【Nコード】

N6689X

【作者名】

神内

【あらすじ】

純潔の女性による神聖政治の行われるガリアラ国では、「皇位継承者は婿を取るまで、男の姿を見てもその声を聞いても肉体に触れてもならぬ」という偏執的な戒めがあった。

しかし皇女サティスターシャは、かつて出会った少年のことが忘れられずにいた。その少年と再会したとき、国を揺るがすような出来事が勃発する。

サテイスターシャ（1）（前書き）

クラインズを一時中断して書いたものです。同じ世界観ですが、単体の話として読んでいただければ嬉しいです。

なお、時系列はクラインズの後です。

サテイスターシャ（1）

ガリアラの首都に位置する北界宮殿のヒイラギ離宮は、冬の日射しを浴びて白亜の大理石をにぶく輝かせていた。

といつても、差す陽光はほとんど灰色の雲にさえぎられ、とても弱々しいものだ。〈人造魔境〉という揶揄は、他の三大国と比べ人の出入りが少ない故の呼称だが、国内の状況を見てもまたく魔境と呼ぶにふさわしい。二階に位置する自室の窓から「街」を眺めながら、わたしはそう思った。

「街」は宮殿に仕える使用人が住まう家の集まりであり、一応かたちだけが集合住宅街としての体裁を保っている。宮殿敷地内にもうけられたそこだけを、この部屋の窓からのぞむことができる。

ガラス戸に手を当てると、ひやりとした。この向こうは、だが、この冷ややかさなど問題にならないくらいとげとげしい冷気に満ちていることだろう。

一方、室内に満ちる暖気は、整えられた暖炉によるものだ。ことに寒さに弱いわたしは、この部屋を出ること自体ほとんどない。ましてや宮殿の外へ足を運ぶことなど、今まで数えるほどしかなかった。

だからせめて、こうして眺める。どこか生気が抜けきつた「街」の風景を。行き交う女性たちを。しかしこのひとつの「街」ですら、宮殿のある敷地のほんのスズメの額ほどしか占めていないと思うと、それもなんだかむなしくなる。

「我が国の都であるトートツスキーは四大国の中でも随一の規模を誇り、その巨大さは他の三国の比ではありません」

昨日の、首都機能と物流と納税の関係をとくとくと説いていた家庭教師の言葉が、ふと頭によぎった。

規模だけは、というのが正解だどっさに思った。なんせガリア

ラは国土そのものが、他の三大国よりも凶抜けて広いのだ。頭でっかちな大陸の形状のため、最北の領土はそうなるのが当たり前であり、なにも特別なことではないからだ。

もちろん、口には出さなかったけれど。

しょせん十六の子ども戯れ言でしかないから。

コンコン、と控えめに扉が打たれた。緩慢な動作で扉へと向き直り、応じる。

「はい」

「フィツポでございます。朝食をお持ちしました」

扉が開き、小間使いが配膳車を押して入ってきた。

「今朝の具合はいかがでしょうか、お嬢様」

「少し頭が重いけど、これくらいいつものことですから、平気です。

.....」

言いつつ壁から背中を離れたそばから足がもつれ、卓に強く手をついてしまう。慌てたようにフィツポが叫んだ。

「お嬢様！」

歩み寄り、肩を取る。

「ご気分が優れないのですか？ タツイアナ医師の回診を早めさせていただきます」

熱いタオルが差し出された。

「ありがとうございます.....暖炉のそばに置いてください」

指示にしたがったフィツポは、すぐに卓のそばへもどり朝食を並べ始める。健康面と味の面で、どちらも申し分のないように作られた王宮のお抱え料理人の渾身の作を、しかし愛でて喜べる気分でもなかった。

ああは言ったが、実際にどうやら体の感覚がおかしいことは気づいていた。床を踏んでいる感覚が希薄だ。なんだか頭のとっぺんがぼうつとしている。

体勢を立て直して、椅子に腰を下ろす。その足取りがふらついて

いたのだろう、さらにフィッポが口を開く。

「お風邪を召されたのでしょうか。なにしろ昨晚はずいぶん冷えましたから。いずれにしる急いでタツイアナ医師に来ていただきませう」

「そうかもしれません。あまり食欲もありませんから……」
ナプキンをかけられたことを、ぼんやりとする頭の向こうで確認すると、わたしは魚と豆の料理を匙ですくい、少量だけ口に運んだ。それを見ていたフィッポが、さきほどよりもやや落ち着きを取り戻した、いつもの淡々とした口調で告げた。

「やはりご朝食より回診を先にいたします。お嬢様、宜しいですか？」

「そうでしょうか……では、よろしくおねがいします……」

ぐらりと頭が揺れるのを感じた。卓に手を置き、とつさにテーブルナプキンを握りしめる。動悸が速くなる。呼吸が荒い。料理皿の輪郭がぼやけ、かすみ出す。

「っ……」

ガタン、という椅子の倒れる音と重なって、「お嬢様！」という小さな悲鳴があがった。

サティスターシャ(2)

「昨晚なにをなさっていましたか、サティスターシャ様」

寝台に眠るわたしをまじまじと見つめてくる、骨張った顔。お付きの家庭教師であるマリアは、三歳のときから付いている人で、見た目五十ほどだろうが、鼻眼鏡の奥の瞳はまだ澁刺とした　　うたとえもどうかと思うけど　　厳しさをのぞかせている。

診察を終えた医師が、家庭教師の隣に座っている。名前はタツイアナ。こちらも若い女だ。困ったような片えくぼを浮かべて、まあまあと傍らでなだめるような仕草をしている。

わたしが倒れたと聞いたとき、部屋に飛びこんできたのはタツイアナだけではなかった。小間使いのフィツポを従えて、この女家庭教師も無機質なコツコツという足音を打ち鳴らし入室してきたのだ。寝台に運ばれ、診察を終えるや、さきほどまでフィツポのいた場所に座り、しっかりと背筋を伸ばして問う。

「昨晚、なにをなさっていたのか。正直に、お答えください」

「すぐに寝ましたよ・・・それがどうかいたしましたか？」

「本当のことをおっしゃってください。夜通し、一睡もせず窓のところまで過ごしていらっしゃった。そうではないのですか？」

「.....」

やはりばれていたか、と熱に浮かされた頭で考える。

しかししかたない、なんせ毎年、この月のこの日に同じことをくりかえしていれば、さすがに察しがつくというものだ。二年前にも一度、露見している。ならばこの習慣と今朝の体調不良が、この老年の女教師の頭でむすびつけて考えられても、なんらおかしくない。曖昧に頷くと、家庭教師は真一文字に唇を引き結んだまま、一度首を横に振った。

「お嬢様、二年前と同じことを申し上げなければならぬことを、私は口惜しく思います。睡眠不足は短期的に見ても長期的に見ても、

お嬢様にとって決して利となることはありません。そもそも「

説教が始まると容易に終わらないことは、よく知っている。見えないようにこっそりため息をつき、教師から目を逸らすように姿勢を変えるが、くどくどという声は耳に届いたままだ。途中まで聞いていたが、やがて不機嫌になりそうな顔をさとられぬよう、すっばり枕に顔をうずめてしまった。

「お嬢様！ お話の最中にそのような態度は………！」

「マリアさん。お嬢様はご気分が優れられないのですから………」

半分冗談でも言うように、ほがらかにタツイアナが割って入る。

名前を呼ばれた女教師の不機嫌な顔が、ありありと頭に浮かぶ。

「分かっております。しかしまたお嬢様がこのようなことをなさつて、お風邪を召しては大変ではありませんか！ だからこそこうして口うるさいと思われようとも………」

「でも、やつぱりここはお説教より静養が一番！ お嬢様も悪気があつたわけではないでしょうし」

「………分かりました、タツイアナ。医者としてのあなたの意見を尊重しましょう」

言葉が終わるや、椅子の引かれる音に続いてコツコツ、という硬い音。素早く扉が開く音が、家庭教師が退室したことを告げていた。「私もこれで失礼いたします。タツイアナさんはお嬢様のそばにいらつしゃってください。なにかあつたらすぐにお呼びください」

その後、ときを置かずして朝の仕事を終えたフィツポも、固く一礼して出て行った。去り際、ちらりと扉口を見ると、胸の前で右手を左肩へ当てるといふいつもの所作をやってから、扉が閉まる。

暖炉の中で火が大きく爆ぜる音だけが室内に満ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6689x/>

一幕の雪夜 - North Princes and East Crown

2011年10月20日02時09分発行